

## 瀋陽駐在員事務所



### 「BM 瀋陽」とは？

正式名称「ビジネスマッチング in 瀋陽」。今年で4回目を迎えた商談会である。主催者は、北海道銀行、札幌市、札幌商工会議所、さっぽろ産業振興財団で、中国側からは、瀋陽市人民政府、中国国際貿易促進委員会などの協力を得ている。

本年は9月21日に瀋陽シェラトンホテルにて開催され、北海道からは、建設関連企業、IT関連企業、飲料水、化粧品、ドラッグストアなど15社が参加した。本商談会に参加した中国企業は、過去最多の70社、商談件数は120を数えた。ひと昔前の中国側企業集めは、瀋陽市に丸投げ状態だったため、なかなか効果的な商談を組めなかったのが実情である。しかし現在は、当事務所が中心となって、日本側企業のニーズを十分に把握して、商談相手となる中国企業を地道に探している。今回の商談会では、手ごたえを感じた道内企業も少なくないはずである。来年の「BM 瀋陽」には、一社でも多くの道内企業が参加することを期待している。

正司 毅

## (財)日中経済協会北京事務所 札幌経済交流室

### 中国の病院での手術



先月に続いて、小職が扁桃腺の手術を中国の病院でした際の経験について書きます。元々扁桃腺が腫れやすく何ヶ月に1回か高熱を出していた小職なのですが、中国に行って以降、空気が乾燥しているせい、汚いせい、1ヶ月に1回以上のペースで高熱が出る様になり、かねてから思っていた手術をする事にしました。先月触れた医療仲介サービスの斡旋により中日友好病院に入院しました。病室は個室で非常に綺麗でした。いよいよ手術の日。手術室に行き、待っている際に何やら分かりませんが署名をさせられます。今もあの書類に何が書いてあったかは謎です。全身麻酔をかけられ目が覚めると病室にいました。喉は猛烈に腫れ塞がっており、唾液が飲み込めません。2日くらいは唾液を吐き続けなくてはならず殆ど寝られません。日本で手術しても同じなのでしょうかととてもつらかったのですが重要なのはその後です。喉を縫っている糸、「溶ける糸なので抜糸の必要はない」との事ですが、全く溶けず術後1ヵ月後、2ヶ月後に抜糸をしました。喉に糸がある時に日本にいる友人の医者に見てもらったところ「この糸、今の日本では使わないし、絶対溶けない糸」との診断でした。そんな事で全て終わったと安心して半年後・・・何と喉に糸が残っている事が日本でわかりました。実家近くの診療所に行ったのですが、既に糸が肉にめり込んでおり切除しなくてはいけない、との事。しかしそこには十分な器具がなく、何と文房具のハサミで喉を切り、糸を取り出しました。抜糸の際は激しい嗚咽との戦いでした。

それ以降、何かあっても日本で治療しようと誓ったのは言うまでもありません。

中島 康成

## ユジノサハリンスク駐在員事務所



### サハリンで初めての道産品フェア開催

先月、北海道主催による道産食品を中心とした北海道物産展（展示即売会）がユジノ市郊外のショッピングモールで開催（3日間）されました。展示会には道内の食品会社16社が参加。3日間とも長い行列が出来、当日販売分が夕方には売り切れ、予定より早く閉店するほどの活況振りでした。

昨年ウラジオストクで同様の物産展を開いており、その時商品が余ったことを考えると、ウラジオに比べサハリンでは道産（日本産）食品への馴染みが深く、受け入れやすい環境にあることが示されました。中でも、売れ筋のNo.1は調味料の“みそ、しょうゆ”です。次いで、菓子類のクッキー、ゼリーはロシアらしく大好評でした。

「サハリンでは日本食品は絶対に売れる」と言うことを実感しました。サハリン発で道産食品がロシア全域に拡大することを願いたい。

三上 訓人